

## — 冬に見直したい住宅の安全ポイントを解説 — 年末は大掃除と一緒に“家の健康診断”を！

「いい家を、より安く」をモットーに住宅の設計・施工を手掛けるグッドリビング株式会社（本社：静岡県浜松市中央区佐鳴台1丁目8-8、代表取締役社長：永野武）は、「よい家を、より安く」を企業コンセプトに、誰もが手の届く価格で“理想のマイホーム”を実現できる家づくりを続けています。

年末に向けて大掃除や帰省など、家で過ごす時間が増える冬の季節。一方で、寒さによる事故や住宅設備の不具合など、住まいに関するトラブルが起こりやすい時期でもあります。

そこで、冬を安全・快適に過ごすために見直しておきたい「住宅の安全ポイント」について解説します。日々の暮らしを支える住まいを、年末という節目に“家の安全”を見直してみましょう。



### ■冬は住宅トラブルが起こりやすい季節

冬は、気温差や結露、暖房機器の使用増加などにより、住宅トラブルが起こりやすい季節です。特に、ヒートショックや結露によるカビ、配管の凍結、暖房器具による火災などは、毎年注意喚起が行われています。

こうしたリスクは、住宅の性能や日頃の点検によって防げるケースも少なくありません。

## ■冬に見直したい住宅の安全ポイント【3つの視点】

### ① 室内の温度差を減らす「断熱性能」

冬場に多い事故のひとつが、急激な温度差によって起こるヒートショックです。

リビングと浴室、脱衣室の温度差が大きい住宅では、身体への負担が大きくなります。

断熱性能の高い家は、家全体の温度差を抑え、冬でも快適で安全な室内環境を保つことができます。



### ② 見えない部分こそ重要な「構造・劣化チェック」

年末の大掃除では、普段あまり意識しない住まいの状態にも目を向ける良い機会です。

外壁や屋根、基礎部分のひび割れ、窓まわりの隙間などは、放置すると雨風の侵入や断熱性能の低下につながります。

### ③ 暖房器具・設備まわりの安全確認

冬は暖房器具の使用頻度が高くなり、火災や事故のリスクも高まります。

コンセントの劣化、コードの断線、給湯設備の異常など、小さな不具合が大きなトラブルにつながることもあります。

使用前・使用中の点検を習慣化することが、安心して冬を過ごすための第一歩です。

## ■「安全な家」は、家族の暮らしを守る基盤

グッドリビングが考える「いい家」とは、見た目や価格だけでなく、家族が安心して長く暮らせる安全性が備わっている住まいです。

断熱性や耐震性といった住宅性能は、日常では意識しにくいものですが、いざという時に家族を守る“見えない価値”でもあります。

一年を振り返る年末は、住まいについても見直す良いタイミングです。

「今の家は冬でも安全か」「これからも安心して暮らせるか」を考えることが、将来の安心につながるでしょう。



### 【会社概要】

社名	：グッドリビング株式会社
ホームページ	： <a href="https://good-living.jp/">https://good-living.jp/</a>
本社所在地	：静岡県浜松市中央区佐鳴台1丁目8-8
設立	：1988年2月17日
資本金	：9,250万円
従業員数	：86名
事業内容	：住宅の設計・施工

### 【本件に関するお問合せ】

IT 広報課 係長 岡 拓哉 (おか たくや)

TEL : 053-445-2000 メール : [oka@good-living.jp](mailto:oka@good-living.jp)